

7月30日（土）ヒロシマを語り継ぐ集い

肥田先生講演

ヒロシマとフクシマ、内部被曝の脅威！

あの水素爆発を起こした福島原子力発電所から立ち昇る白い水蒸気の正体は、格納容器から漏れ出した高濃度の放射線物質を含んだ水です。それは上空にたなびき、30キロ以上離れた飯館村や福島県境を越えて静岡の茶畑からも放射線を検出しています。

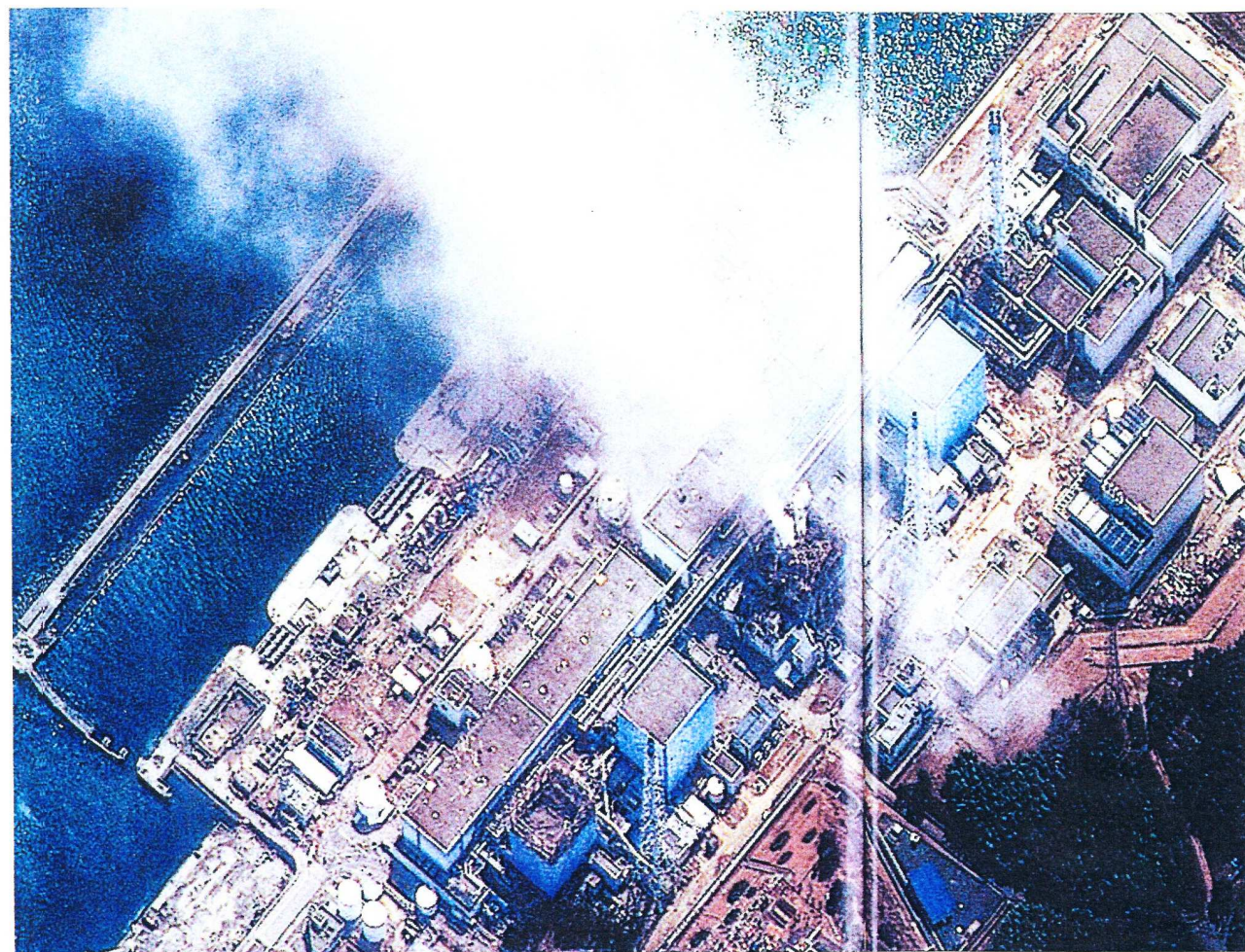
政府は20ミリシーベルト以下なら小学校の校庭を使っても大丈夫と言いました。放射線に感受性の高い子どもたちにこんな基準を当てはめることができるのでしょうか。福島原発で働く労働者に250マイクロシーベルト以下で働かせることが許されることなのでしょうか。最大の問題は「低線量被曝」と「内部被曝」の影響の深刻性なのです。

今年の「語り継ぐ集い」には、被曝医師「肥田先生」を遠路浦和からお招きしました。ご存知のように肥田先生は被曝直後の広島で救護活動に献身されたことを原点に戦後一貫して被曝者医療の現場にかかわられてこられました。そして、被曝直後入市した若い女性が直接被曝した方と同じように髪が抜け血を吐いて亡くなっていく現場に立会い、内部被曝の問題に確信をもっていかれました。

思い返せば、あの被曝直後の広島は何千シーベルトであったことでしょうか。被曝者は、そのことを知るすべもなくガスを吸い、黒い雨に打たれたのでした。

いまフクシマは、黒い雨ではなく、無色透明の放射線を帯びた空気と水の中で生活を強いられているのです。

いまや、被曝66年目の8・6はフクシマの問題抜きに語ることはできません。電力会社は儲かる原発から手を引かないし、プルトニウム大国であることを外交カードにする政府も原発から撤退することはないでしょう。ヒロシマから、そして全国から沸き起こる原発ノーの力で核も原子炉も廃絶していきましょう。



この白くたなびいている水蒸気が放射性物質を福島だけでなく関東一帯に撒き散らしているのです。

□ 日時：7月30日（土曜） 午後3時より4時半

□ 会場：落合集会所

主催：ひまわり会（連絡先：高陽第一診療所 電話 842-1177）